

平成18年度第2回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：2005年12月17日（土）13:00～17:00

場所：愛知県中小企業センター8階第1教室

出席者：美宅会長、木寺副会長、石森副会長、宇高、川戸、諏訪、園山、徳永、豊島、野地、原田、光岡、倭、由良各運営委員、曾我部会誌編集委員長、難波 H18 年会実行委員長、本間中部支部長、葛西 Biophysics 編集長、永山委員、河合秘書

報告事項：

(1)生物物理学会運営方針について

美宅会長より、生物物理分野活性化のために情報発信（海外、会員向け、一般向け）と交流促進（海外、他分野、若手・女性研究者）を重点項目とする運営方針について説明があった。

(2)平成17年度年会総括報告

参加者数は 1,713 名、ポスター発表件数は 1,035 件であった。昨年度年会に比べて発表件数は 50 件以上の増加。収支に関しては約 550 万の黒字となる見込み（最終決算報告は次回運営委員会）。会場費の負担額が大きく心配だったが、交通の便が良くない北海道での黒字は大成功であるとの意見が複数の運営委員からあった。懇親会における若手奨励賞受賞者発表が参加人数に与えた効果の有無について質問があった（次回運営委員会にて報告）。年会実行委員会の川端先生より、コンベンションセンターを利用した場合の年会運営における資金繰り（会場使用料、企業展示、学会からの援助等のバランス）が非常に難しく、次年度以降も周到な準備をお願いしたいとのコメントが伝えられた。

(3)平成18年度年会準備状況

東アジアの若手研究者の旅費援助を主たる目的とする募金の依頼書を企業等に送付した。合同会議のホームページをオープンした。24 件のシンポジウム開催を予定しており、現在テーマを募集中。12月28日の締め切り後、年末に開催するプログラム委員会で検討する。今のところ応募数が少ないため、メーリングリスト等で再度シンポジウムの応募を呼びかけることになった。東アジアの外国人を含むシンポジウムを組むことが容易でない分野もあるため、通常年会と同じ形式（日本人講演者のみで日本語で実施）のシンポジウムも排除しない方が良いとの意見があり、実行委員会での検討をお願いした。海外にも改めてシンポジウムの提案を依頼することにした。Plenary Lecture は 7 件予定しており、プログラム委員長と相談の上、各国から推薦された 10 名の候補者に依頼状を送付することに決定したと報告があった。しかし、候補者が構造生物学に偏っているとの意見があり、返事がなかったシンガポールの候補者推薦依頼を含め、再検討を難波実行委員長に依頼した。なお招待講演者の旅費は、実行委員会からは出さない。来年度年会が EABS との合同会議で

あることを知らない会員が相当いる。については、今後積極的に合同会議を宣伝する一方、日本生物物理学会の年会である点にも配慮した運営（特にポスター発表や若手の参加促進等）を実行委員会にお願いした。若手奨励賞については、EABS 側でも実施することを諮問委員会に提案することになった。沖縄科学技術研究基盤整備機構の協賛を予定。予算は未定だが、四千万台の予定。アジアへの販路拡大の機会になるので、積極的な企業展示を促す。

(4)平成 19 年度年会準備状況

エーイー企画を通して再度パシフィコ横浜の見積もりを取り直したところ、会場費が 1,000 万円から 1,500 万円の間におさまること、ランチョンセミナー、企業展示は見込みが明るいことから、19 年度年会を、東大駒場キャンパスではなくパシフィコ横浜で実行したいとの報告があった。会場の都合により日程は 12/21~23 の 3 日間しか空いていないが、他の学会と重なっていないため、企業展示が集まるメリットがあるとの説明があった。ポスター会場はラウンジ等のスペースを利用の予定。適当な懇親会の場所の確保が心配であるとの意見があり、検討をお願いした。以前に取り決められた、年会では口頭発表とポスター発表を交互に行うということについて運営委員会で再度確認がなされたが、19 年度年会は、会場の都合により、18 年度に引き続きポスター発表とすることにした。日程は 12 月 21~23 日で決定。

(5)3 年以上会費滞納者の自然退会について

自然退会となる 3 年以上会費滞納者に関して報告があった。会費滞納者の自然退会に至るプロセスにかかる費用の無駄を省くことと、滞納 1 年あるいは 2 年の会員を学会に引き戻すための方策について、庶務担当委員が検討することになった。

(6)広告について

広告収入の現状について報告があった。紙媒体の広告は減少し続けており、学会の財政を圧迫する大きな要因となる。運営委員は少なくとも 2 件の広告を取るよう努力して欲しいとの依頼があった。特に大型物品の購入時に、営業にお願いするよう要請があった。

(7)出版委員会報告

邦文誌、欧文誌、HP が出版事業の 3 つの柱であり、それぞれの実行委員会を作り、全体の統括を出版委員会が行うこととする方針の報告があった。

(8)若手奨励賞について

若手奨励賞一次審査委員長の木寺副会長より、平成 17 年度の若手奨励賞の審査に関して報告があった。また 1 次審査に関する覚え書きが配布された。応募者の身分は助教授クラ

スから修士課程の学生まで幅広い上に、応募書類は審査のためには内容が不十分であり、非常に大変な審査作業となった。きちんとした枠組みを作るべきであるとの意見から、今後の実施方法を、石森副会長を中心に男女参画・若手担当委員が検討することにした。なお、若手奨励賞は若手の **promotion** のために設けたものであるため、確立した研究者は対象者とならないこと、受賞者は特定のグループに偏らないこと等を、来年度以降も継続してすることを確認した。若手奨励賞の英訳については、**Early Research in Biophysics Award** が適当であるとの意見が大勢であった。来年度の沖縄年会では、**EABS** も日本生物物理学会と一緒に若手奨励賞を設けることを、**EABS** 実行委員会に提案することになった。実施の場合は、**EABS** 側奨励賞の経費は合同会議実行委員会が負担する。

(9)男女参画・若手問題検討委員会報告

17 年度年会における男女共同参画シンポジウムについて報告があった。11 月 24 日、ランチョンセミナーと同じ時間帯に開催。約 200 名の参加があった。シンポジウムでは、生物物理学会・分子生物学会合同提言についての説明を始め、活発な議論が行われた。シンポジウムの概要をホームページに掲載する予定（担当：由良委員）。来年度以降も男女参画・若手問題シンポジウムとして、継続することになった。通常のシンポジウムの 1 つとして格付けるべきとの意見から、来年度は、石森副会長を中心に、内容を決定し、通常のシンポジウムと同様に年会プログラム委員会に申し込み、要旨集にも掲載することとなった。また、開催日時については参加者が集まり易いようにランチョンセミナー時の開催を希望。来年度も日本語で実施の予定。今後さらに男女共同参画・若手推進事業を推進する必要性から、本事業に関する経済的支援等を行うための資金として、男女共同参画・若手推進事業経費を計上することに決定（19 年の予算から明文化。18 年度は予備費から計上）。京都年会実行委員会が若手育成のために学会に納めた剰余金を、沖縄年会のシンポジウムに充当する可能性も考慮することになった。美宅会長から、現在科学技術振興調整費で男女共同参画の課題を募集しており、各大学で応募を検討して欲しいとのコメントがあった。

(10)その他

学会より推薦していた京都大学藤吉氏が島津賞を受賞。学会推薦で受賞した場合は、学会のホームページ等でアナウンスすべきとの意見があり、由良委員が対応することになった。永山氏より、IUPAB の総会、理事会について報告があった。2008 年は 2 月に Long Beach でアメリカ国内学会との共催、2011 年は北京で EABS との共催の予定。IUPAB への加盟団体としての生物物理研連が消滅したため、新たな加盟団体を決める必要がある。加盟料は毎年 6,000 ドル。生物物理学会では対応が難しく、加盟団体は学術会議とすべきであるとの意見だった。生物科学関係の連携の会議が出来るという話もあるので、状況がわかってきた時点で対応を考えることになった。なおこの対応は栗原氏にお願いし、今後運営委員会にも出てもらう予定である。これに関連して、生物物理学会としての国際対応および

他の学会への対応を担う組織が必要であり、今後運営委員会で対応を検討することとし、永山氏、栗原氏に適宜参加をお願いする。

議 題：

(1)出版委員会からの議題

1-1 e-journal について

札幌年会の時に開かれた編集委員会での議事が報告された。投稿数は少ない（2004 年 6 編、2005 年 12 編（2005 年 11 月 24 日現在））。投稿数を増やす方策をいくつか工夫している。

欧文誌に専門的に対応する運営委員の任命と運営のための委員会設立が提案され、承認された。担当運営委員は神取委員にお願いし、欧文誌編集委員会の上に欧文誌実行委員会（3～4 名の実行委員）を設けることになった。

1-2 会誌について（曾我部）

曾我部編集委員長より、会誌の編集方針案について説明があった。会誌の A4 版移行の提案がなされた。1 割程度の印刷費増加はあるが、収入を増やす努力を続けるということを前提に、また他の予算を削ってでも進めるべき等の意見から、承認された。来年 1 月から準備を始める。次回の運営委員会で再度確認の予定。なお広告費は据え置き。解説と総説の混同について指摘があり、解説は総合的、教科書的な内容、総説は **topical review** であることを踏まえて執筆するように、著者に依頼することにした。解説については書籍として出版することを検討しており、年間予定を決める。会誌には学会の会員に向けてわかりやすい記事を載せることを重視し、国際化促進、男女参画・若手等の取り組みもきちんと取り上げる予定。平成 18 年は移行期間で、平成 19 年に大幅変更を行いたい。編集副委員長として名古屋大学の川岸氏が推薦され、承認された。なお、副編集委員長は次期副編集委員長ということではないことを確認した。副編集委員長の選考規定が未整備なため、次回運営委員会までに作成の予定。

1-3 18 年度予稿集について（木寺）

現在の年会予稿集は、海外の研究者にとってはアイデア盗み放題であり、防御策を講じる必要がある。そのために、年会予稿集を **BIOPHYSICS** の **supplement** として出版することが提案された。**EABS** との合同会議である 18 年度は、予稿集を **supplement** として出版することに賛成の意見が多数を占めた。19 年度以降も継続の方向で検討することになった（予算等問題点を調べ、今後議論）。なお特許の問題から、予稿集は **supplement** として出版されることを周知しないといけないとの意見があった。

1-4 生物物理 HP ワーキンググループについて

学会ホームページの維持管理については担当委員の手弁当的な側面が強いが、そろそろ限界に達している。ホームページは広告媒体を兼ね始め、技術進歩も早いので、デザイン等外注の可能性を検討したいとの提案があった。100 万円程度の予算での外注を検討するこ

とに決定。3年以内に見直す予定。そのためのワーキンググループ委員が承認された。4月からブログ付きの学会ホームページを公開予定で、ホームページが広告媒体となったときに生じる問題点については今後検討の余地がある。

(2)分野別専門委員

分野別専門委員の候補者が報告され、承認された。候補の委員がいない分野については、昨年度の委員に再度お願いすることにした。なお、学会員でない人が委員に含まれないかどうかを由良委員が確認することになった。

(3)特許について

日本生物物理学会は、特許法第30条に基づく特許申請のための発表証明を行える学術研究団体に指定されているが、学会のホームページには何も記述がない。このことについて学会員へ周知する一方、今後年会実行委員会へ年会開催時に広くアナウンスをお願いすることになった。また、学会員に対し、知的財産の重要性を教育することも決まった。なおこれに関連して、会場におけるポスターの写真撮影禁止を徹底させることを申し合わせた。

(4)年会余剰金について

北海道支部から支部活性化のために年会余剰金の使用を認めてもらいたいとの申し出があり、生物物理学会における年会余剰金の取り扱いについて議論があった。慣例として余剰金を実行委員会にプールして地域活動のために使用してきたことがあるが、経理的には余剰金が出た場合は原則学会に戻すべきとの意見があった。支部活動、各地域の活動をサポートするために、年会実行委員会が余剰金を少し使用する権利があることを確認したが、金額は未定。なお北海道支部の使用金額については12月中に決定する必要がある、経理担当運営委員と会長に一任することになった。

(5)IUPS シンポジウム共催について

生理学会にパイプを持つ専任の世話人をお願いすることとし、曾我部委員に適当な人を推薦してもらうことにした。学会として旅費援助を考えるべきとの意見から、予備費から、20万円×2名分を学会として支出することに決まった。

(6)平成19・20年度学会委員候補者推薦について

選挙日程および候補者推薦要領について承認された。投票率を上げるため、委員選挙の案内を全会員にメールで出すことと学会ホームページに掲載することにした。

(7)IUPAB 関係について

合同年會を契機とするアジア地区の生物物理コミュニティー拡大を目的として、EABS の

プレミーティングの開催が提案された。開催日は 4 月の第 4 回沖縄科学技術研究基盤振興機構シンポジウムの最終日を予定。8 カ国から一人ずつの招待講演者を予定。費用は約 160 万円。費用は企業からの募金や他の団体への補助金申請により調達することを前提とするが、EABS&BSJ2006 事務局へ通常の貸付金 50 万円に加えて 150 万円を貸し付けることが承認された。

次回： 4 月 8 日（土）、場所は未定。